

地域脱炭素フォーラム2025
~地域脱炭素2.0に向けた官民連携の更なる強化~

FC今治高校での環境教育の取組について
~地域脱炭素を担う次世代人材の育成~

一般社団法人 Green innovation

浦田 修伍

2025年10月4日(土)

本日本話すること

- 1 自己紹介・組織紹介
- 2 脱炭素への取り組みと人材育成の重要性
- 3 FC今治高校 里山校における環境教育の取り組み

本日本話すること

1 自己紹介・組織紹介

2 脱炭素への取り組みと人材育成の重要性

3 FC今治高校 里山校における環境教育の取り組み



一般社団法人Green innovation

浦田 修伍

欧州系総合コンサルティングファームにて国内外企業のDX推進に従事。
2021年より一般社団法人Green innovationにて、脱炭素社会の実現に向けた人材育成プログラム「Green Innovator Academy」のプログラム設計を担当。サステナビリティ分野に取り組む企業や教育機関と連携し、GX推進を担う人材の発掘・育成と実践の場づくりを通じたエコシステム構築に携わる。2024年からは世界経済フォーラム発のグローバルネットワーク Catalyst Now Japan Chapterの共同代表を務める。

北欧のクリエイティブビジネススクールHYPER ISLAND卒業

関西学院大学 非常勤講師

一般社団法人Green innovation

1

エコシステムビルディング

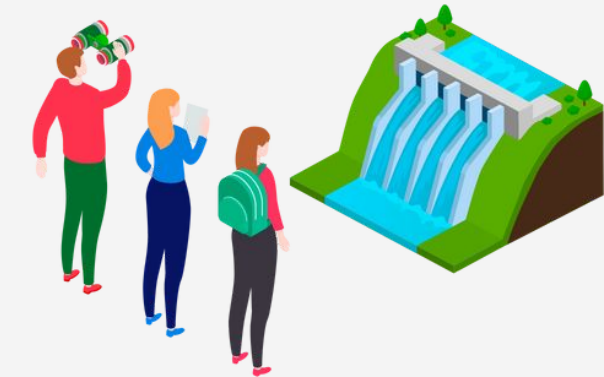
Ecosystem Building



2

研修プログラム

Fieldwork Program



3

事業創造支援

Open Innovation



4

コンサルティング

Consulting



Green Innovator Project

経済と環境の好循環を生む1,000人のイノベーターを育成

Green Innovator Academy

イノベーター育成プログラム

- ・若手次世代経営幹部（企業/省庁）コース
- ・Z世代（大学生）コース



Green Innovator Forum



業界やセクター、世代を超えた
対話・共創の場

業界・セクターを超え、各界の第一線で活躍し 国内外の脱炭素社会を牽引する講師陣



岡田 武史 氏

株式会社今治・夢スポーツ
代表取締役会長
元サッカー日本代表監督



金平 直人 氏

世界銀行
Senior Digital Development Specialist



前田 雄大 氏

元外交官
エネルギーアナリスト



蛭間 芳樹 氏

日本政策投資銀行



牧浦 土雅 氏

Degas株式会社 CEO
JAHQCC代表



福島 弦 氏

株式会社SANU
CEO



平山 雄太 氏

IDEAPOST株式会社
CEO



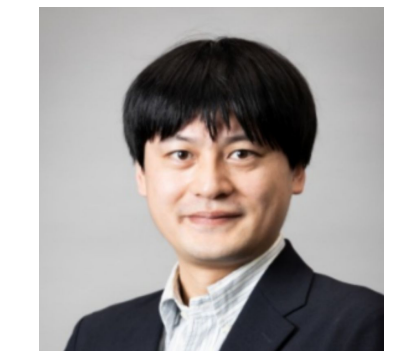
坂野 晶 氏

一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン
代表理事
株式会社ECOMMIT CSuO



林志洋 氏

ショクバイ株式会社
代表取締役



山東 晃大 氏

自然エネルギー財団
上級研究員

Green Innovator Community



50 名以上の
専門家が在籍



世界中に
500 名以上の
卒業生



30 団体以上の
パートナーがご参画

FC今治高校 里山校との連携

— ヒューマンディベロップメントプログラム②環境教育



地球環境について
テクノロジー、金融、政策、
あらゆる面から理解し、
持続可能な社会づくりに
貢献できる人財を育成する



入学前
環境問題や自然との共存への興味がある

一年次
地球環境に対する国際社会
の認識とグローバルイニシ
アティブを学ぶ

二年次
これからの社会を想像し、社
会課題を発見し、自ら問いを
立てローカルで実践する

本日本話すること

- 1 自己紹介・組織紹介
- 2 脱炭素への取り組みと人材育成の重要性
- 3 FC今治高校 里山校における環境教育の取り組み

深刻化する地球環境の危機と気候変動対策

SDGsやESG、脱炭素が重要視される背景：**地球環境危機**

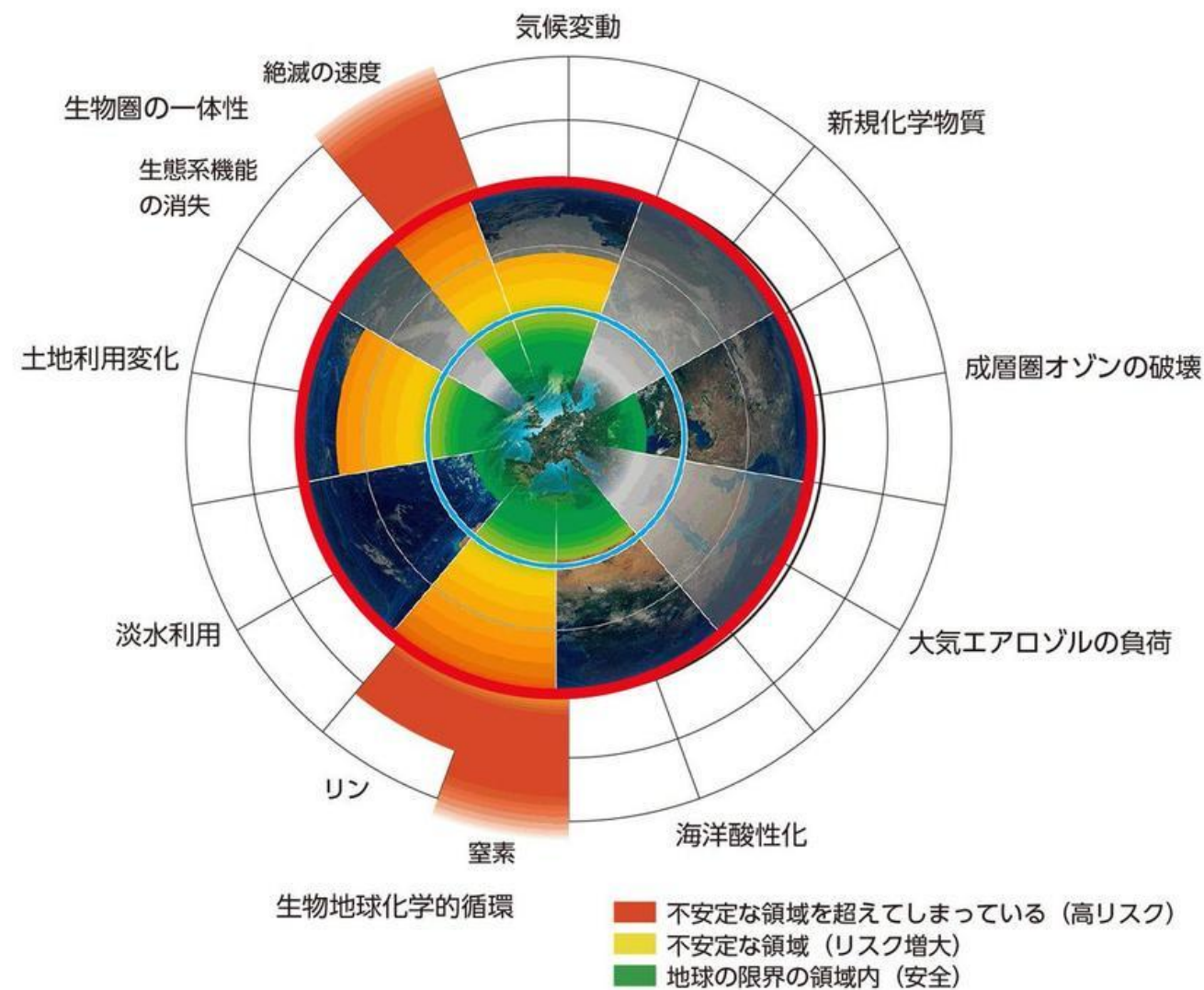
極端な気象や砂漠化、生物多様性の喪失。

人間の経済活動による**地球環境への負担**が、**限界**を越えつつある。



深刻化する地球環境の危機と気候変動対策

プラネタリーバウンダリー（惑星の限界）



資料：Will Steffen et al. [Guiding human development on a changing planet]

科学者たちは、
持続可能な道筋を見つけるために
残された猶予はあと10年であり、
そこを超えると
地球環境は制御不能になる
と警告しています。

グリーン成長戦略（概要）

（令和3年6月18日策定）

- 温暖化への対応を、経済成長の制約やコストとする時代は終わり、「成長の機会」と捉える時代に入っている。
- 実際に、研究開発方針や経営方針の転換など、「ゲームチェンジ」が始まっている。
この流れを加速すべく、グリーン成長戦略を推進する。
- 「イノベーション」を実現し、革新的技術を「社会実装」する。
これを通じ、2050年カーボンニュートラルだけでなく、CO₂排出削減にとどまらない「国民生活のメリット」も実現する。

2050年に向けて成長が期待される、14の重点分野を選定。

・高い目標を掲げ、技術のフェーズに応じて、実行計画を着実に実施し、国際競争力を強化。 ・2050年の経済効果は約290兆円、雇用効果は約1,800万人と試算。

 洋上風力・太陽光・地熱 ・2040年、3,000～4,500万kWの案件形成【洋上風力】 ・2030年、次世代型で14円/kWhを視野【太陽光】 1	 水素・燃料アンモニア ・2050年、2,000万吨程度の導入【水素】 ・東南アジアの5,000億円市場【燃料アンモニア】 2	 次世代熱エネルギー ・2050年、既存インフラに合成メタンを90%注入 3	 原子力 ・2030年、高温ガス炉のカーボンフリー水素製造技術を確立 4	 自動車・蓄電池 ・2035年、乗用車の新車販売で電動車100% 5	 半導体・情報通信 ・2040年、半導体・情報通信産業のカーボンニュートラル化 6	 船舶 ・2028年よりも前倒しでゼロエミッション船の商業運航実現 7
 物流・人流・土木インフラ ・2050年、カーボンニュートラルポートによる港湾や、建設施工等における脱炭素化を実現 8	 食料・農林水産業 ・2050年、農林水産業における化石燃料起源のCO₂ゼロエミッション化を実現 9	 航空機 ・2030年以降、電池などのコア技術を、段階的に技術搭載 10	 カーボンサイクル・マテリアル ・2050年、人工光合成プラを既製品並み【CR】 ・ゼロカーボンスチールを実現【マテリアル】 11	 住宅・建築物・次世代電力マネジメント ・2030年、新築住宅・建築物の平均でZEH・ZEB【住宅・建築物】 12	 資源循環関連 ・2030年、バイオマスプラスチックを約200万吨導入 13	 ライフスタイル関連 ・2050年、カーボンニュートラル、かつレジリエントで快適な暮らし 14

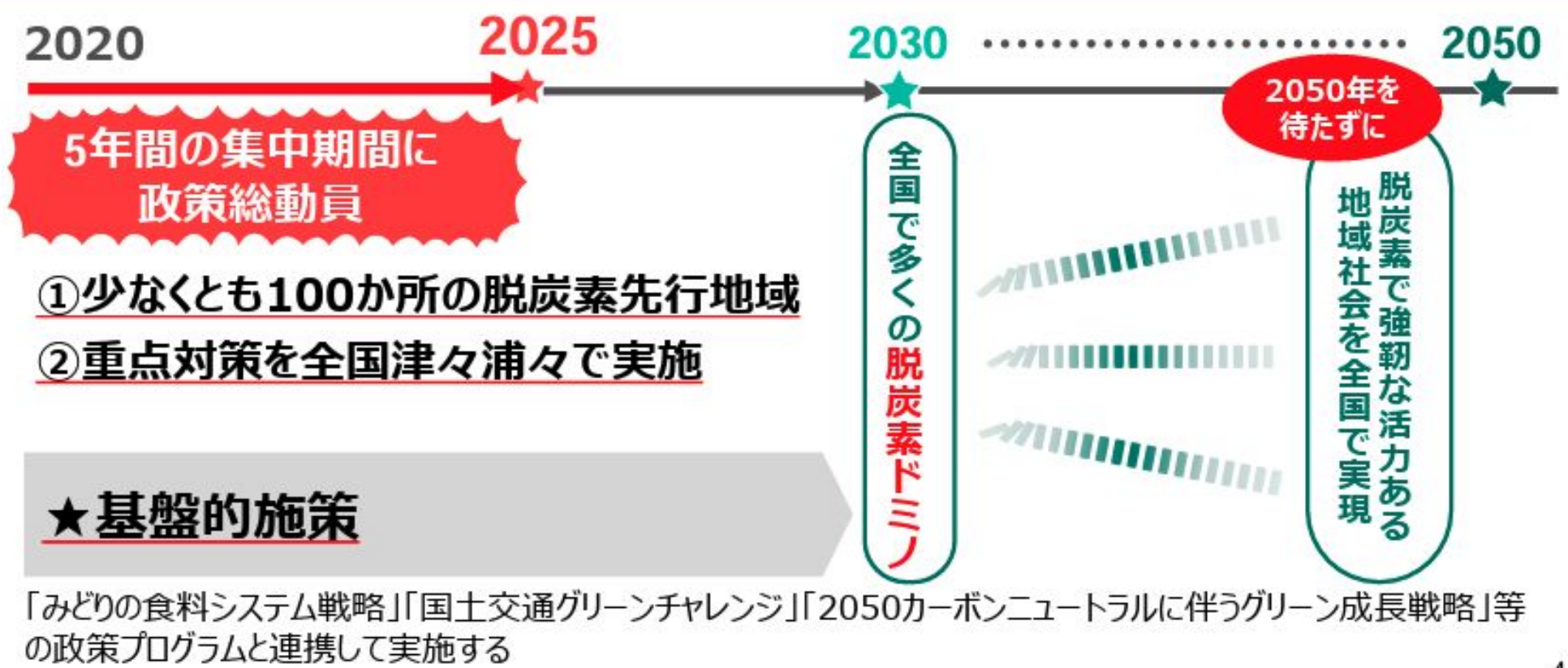
政策を総動員し、イノベーションに向けた、企業の前向きな挑戦を全力で後押し。

1 予算 ・グリーンイノベーション基金（2兆円の基金） ・経営者のコミットを求める仕掛け ・特に重要なプロジェクトに対する重点的投資	2 税制 ・カーボンニュートラル投資促進税制（最大10%の税額控除・50%の特別償却）	3 金融 ・多排出産業向け分野別ロードマップ ・TCFD等に基づく開示の質と量の充実 ・グリーン国際金融センターの実現	4 規制改革・標準化 ・新技術に対応する規制改革 ・市場形成を見据えた標準化 ・成長に資するカーボンプライシング
5 国際連携 ・日米・日EU間の技術協力 ・アジア・エネルギー・トランジション・イニシアティブ ・東京ピوند・ゼロ・ウィーク	6 大学における取組の推進等 ・大学等における人材育成 ・カーボンニュートラルに関する分析手法や統計	7 2025年日本国際博覧会 ・革新的イノベーション技術の実証の場（未来社会の実験場）	8 若手ワーキンググループ ・2050年時点での現役世代からの提言

資料：グリーン成長戦略（概要） | 経済産業省

2. 地域脱炭素ロードマップ 対策・施策の全体像

- **今後の5年間に**政策を総動員し、人材・技術・情報・資金を積極支援
 - ①2030年度までに少なくとも**100か所の「脱炭素先行地域」**をつくる
 - ②全国で、重点対策を実行（自家消費型太陽光、省エネ住宅、電動車など）
- 3つの基盤的施策（①継続的・包括的支援、②ライフスタイルイノベーション、③制度改革）を実施
- モデルを全国に伝搬し、2050年を待たずに脱炭素達成（**脱炭素ドミノ**）

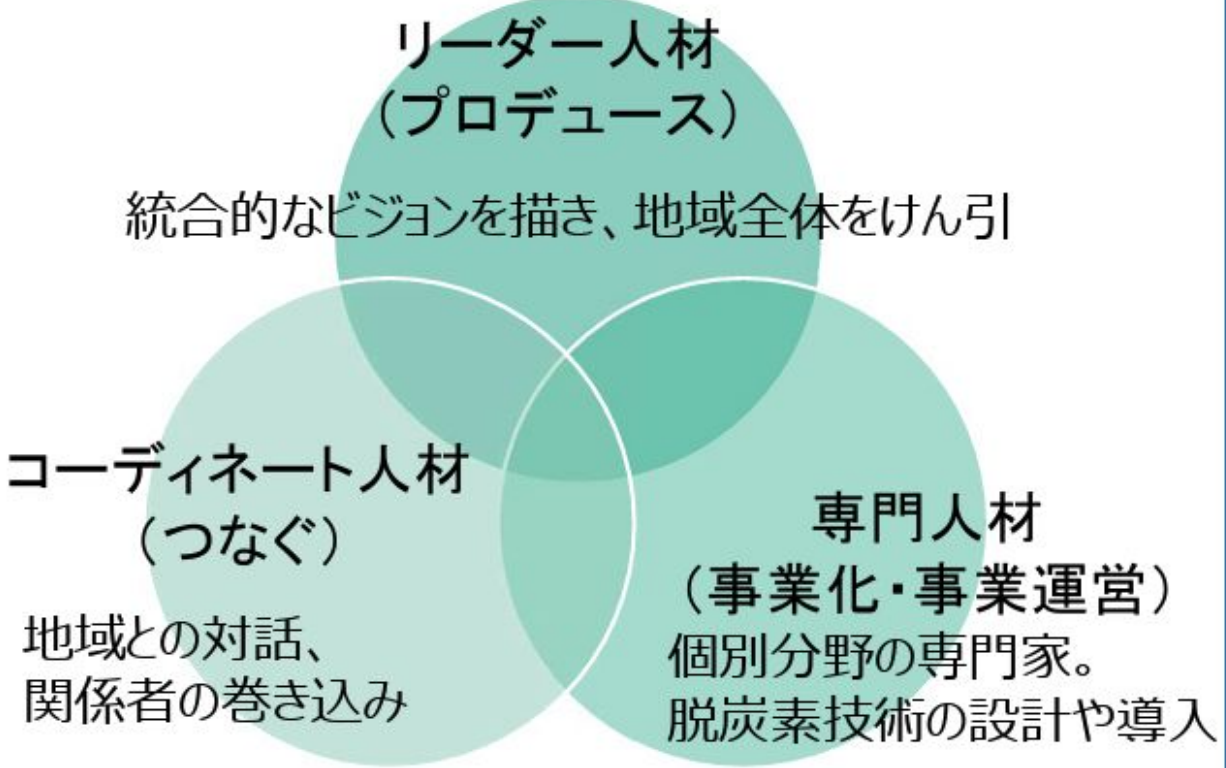


4

資料：地域脱炭素ロードマップ【概要】 | 環境省

育成する人材イメージ

地域に利益をもたらす再エネ事業を進めるために必要となる「地域での合意形成」「行政内部での調整」「ビジョン・ビジネスモデルの構築」など、直面するさまざまな課題に挑戦する「地域中核人材」を育成する



資料：地域脱炭素実現に向けた中核人材の確保・育成事業 | 環境省

本日本話すること

- 1 自己紹介・組織紹介
- 2 脱炭素への取り組みと人材育成の重要性
- 3 FC今治高校 里山校における環境教育の取り組み

FC今治高校 里山校における 環境教育



教育理念

私たちは今、自分の生きる時代だけでなく、
子や孫その先に続く世代がこの地球で生き続けていくために、
新しい社会づくりを迫られている。

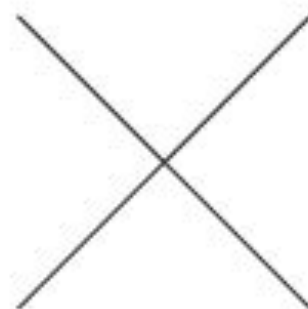
そのためには、困難を乗り越えた時、何かに没頭した時、
誰かのために本気で動いた時、そんな瞬間に沸き起こる
「人間が生きるために本来持っている力」を覚醒させることが
必要なのではないだろうか。

この力を引き出すために、とにかく実践を重ね、
体験から学び続ける場づくりを行うことで、
この地域、この国、この地球がどんな危機に見舞われようと
次の世代へと命をつなげていける
ヒストリック・キャプテンシップをもったひとづくりを実践します。

命をつなぐために
生きることの本質を問い
実践する



社会に通用する
実になる学び



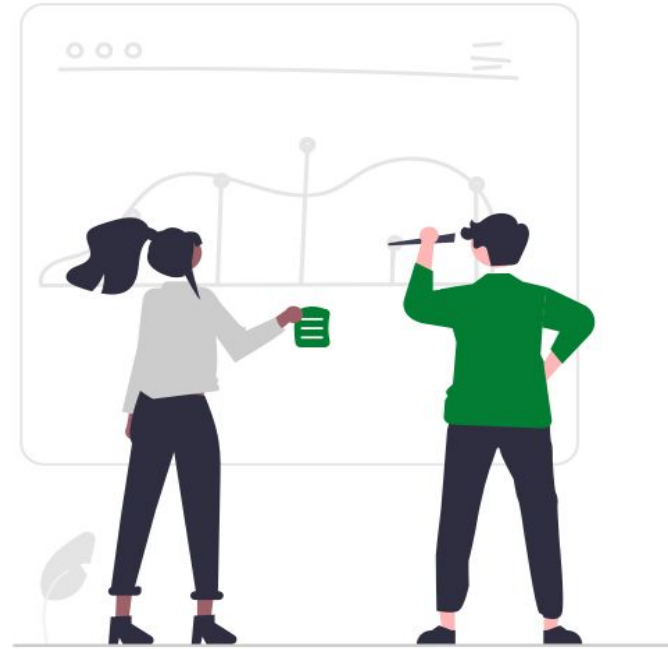
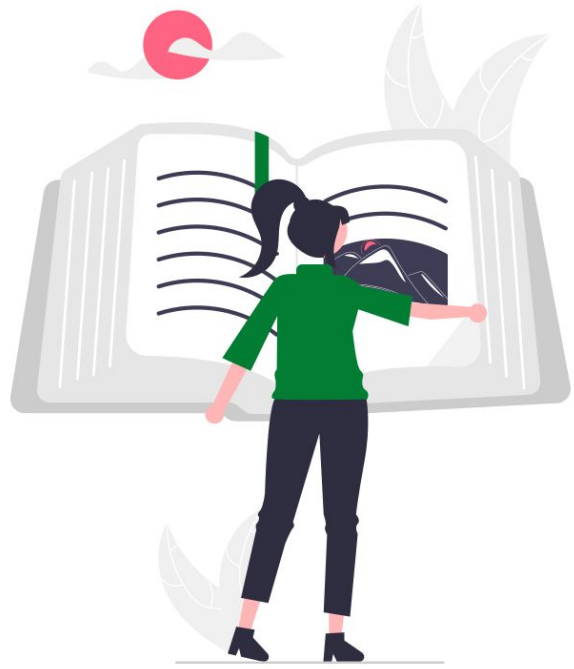
エラー＆ラーンで
失敗から学べる環境

知識として頭で学ぶのではなく、心と身体で体験
まずは自分でやってみて、経験知を身に着ける

環境教育

地球規模の環境課題を
各界の第一線で活動する
起業家・専門家・企業・省庁との対話を通して学び、
実践を通して自分ごととして捉え、
身の回りから社会システムを変える
イノベーションを探求する

環境教育



高校入学前

環境問題や自然との共存への興味がある

高校1年生 後期

地球環境に対する国際社会の認識
とグローバルイニシアティブを学ぶ

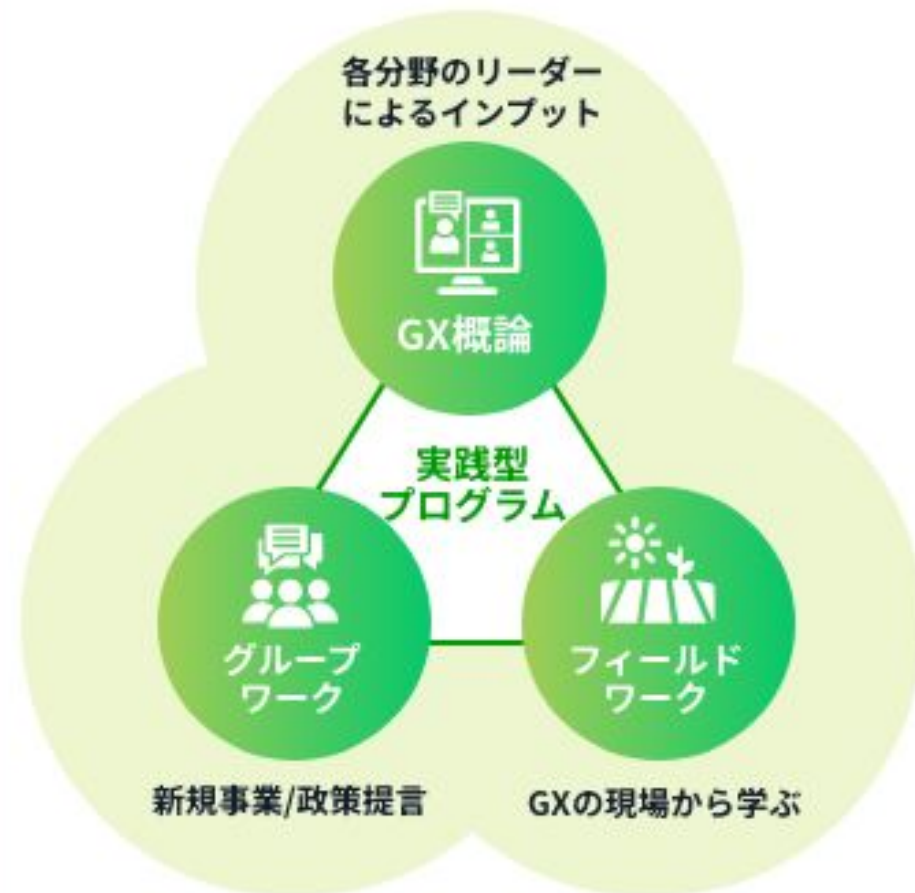
高校2年生 前期

これからの社会を想像し、社会課題を
発見し、自ら問いを立てローカルで実
践する

授業内容

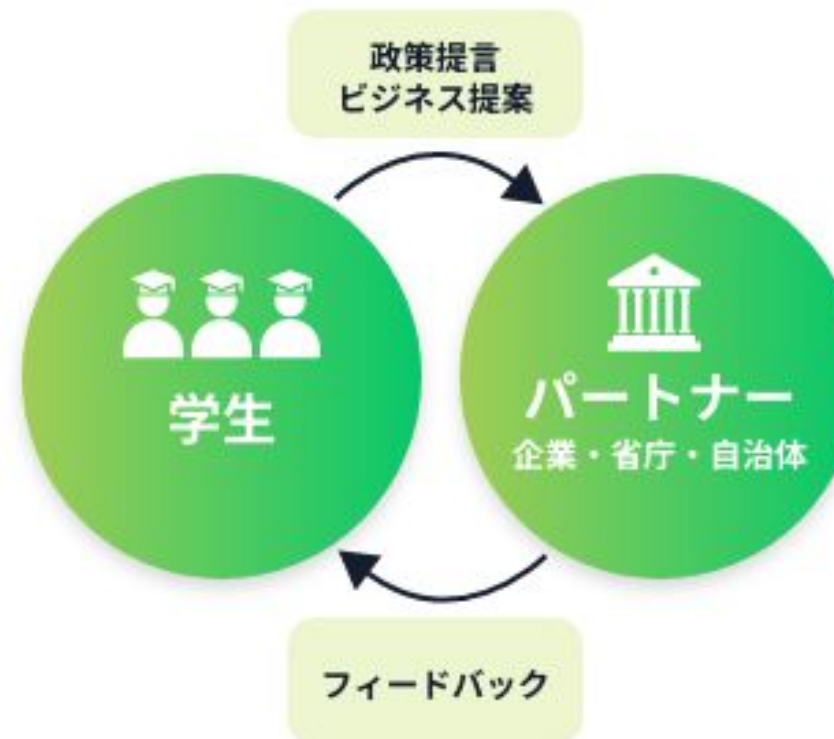
Feature 1

大局を捉え各分野の
最前線の取り組みを学ぶ



Feature 2

リアルな現場で
未来創造を実践する



Feature 3

可能性が広がる
多様なセクターとの共創



授業内容

①GX概論（講義）

各界の一線で現役で活躍する専門家・起業家の対話を通して、脱炭素社会実現に向けた大局と重要な4つの社会/経済システムにおける知見を学ぶ。



②フィールドワーク

脱炭素社会の実現に向けた事業や自然との共存に向けた取り組みを行っている企業・団体の現場を訪問し、活動内容やインパクトを学ぶ。



③共創プロジェクト

グループで理想的な社会を描き、実現に向けたアプローチ・アクションプランを検討し発表。



④リフレクション・フィードバック

講義やグループワークを通して学んだことを振り返り、言語化することで学びの理解を深める。
またグループメンバー同士でのフィードバックを通じて自分自身をより深く理解する。

GX概論（講義）

テーマ

大局を捉える

4つのシステムチェンジ

エネルギーシステムの変革
(電力・産業・交通の脱炭素化)

食料システムの変革
(持続可能な食料、森林、土地、淡水、海洋)

生産消費システムの変革
(持続可能な生産と消費)

都市システムの変革
(持続可能な都市とコミュニティ)

授業の流れ

事前学習
問い立て

講義学習を通じて、「よりよい未来をつくるためには」という視点で、講師と対話する問いを立てる

当日講義

講師による当日講義を実施

質疑応答・対話

講義の感想や、事前に準備した問いを基に質疑応答形式で対話

講義終了後
アウトプット

事前学習や講義を通して学んだ内容を振り返り、自分の言葉でまとめて提出

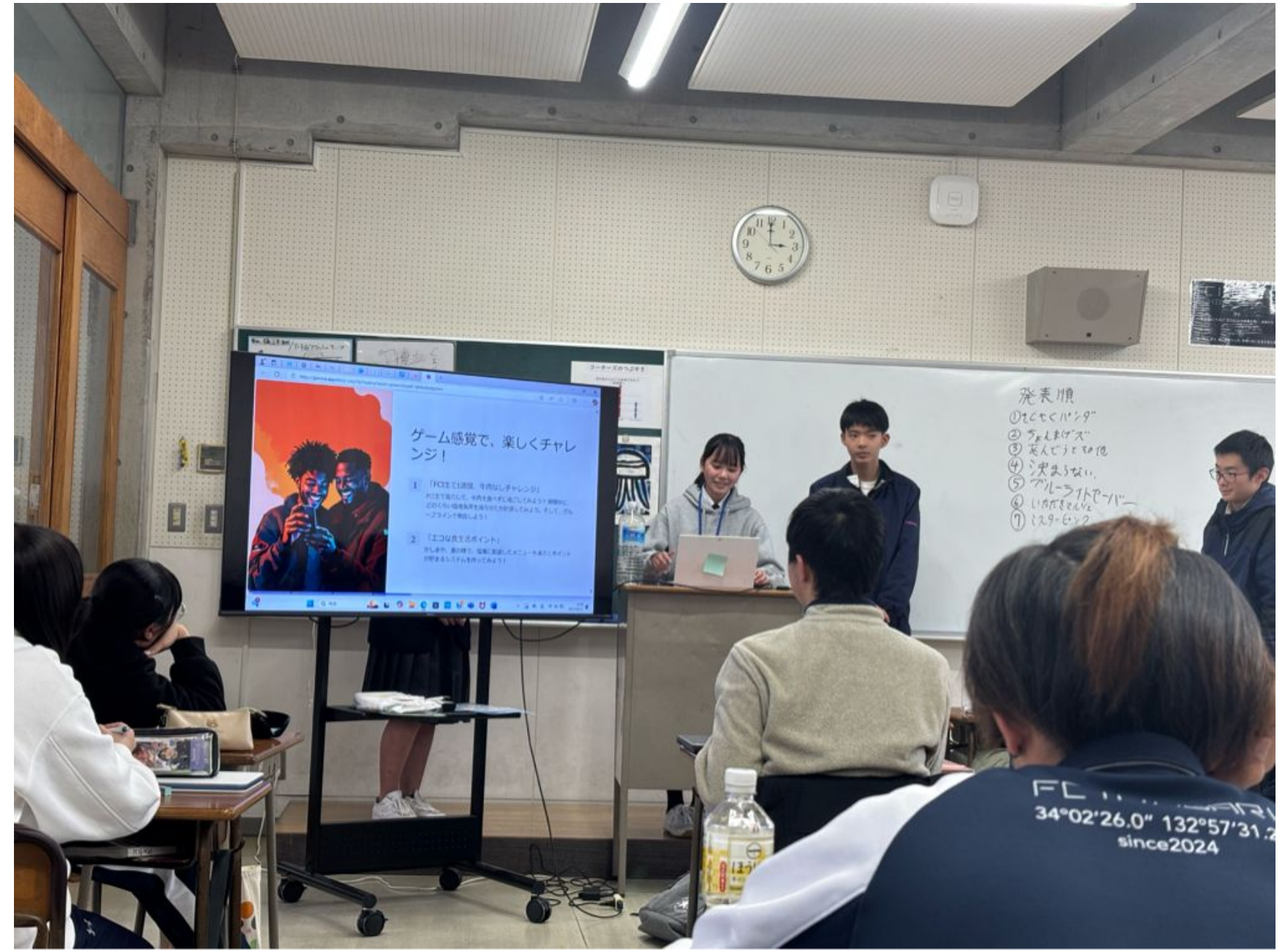
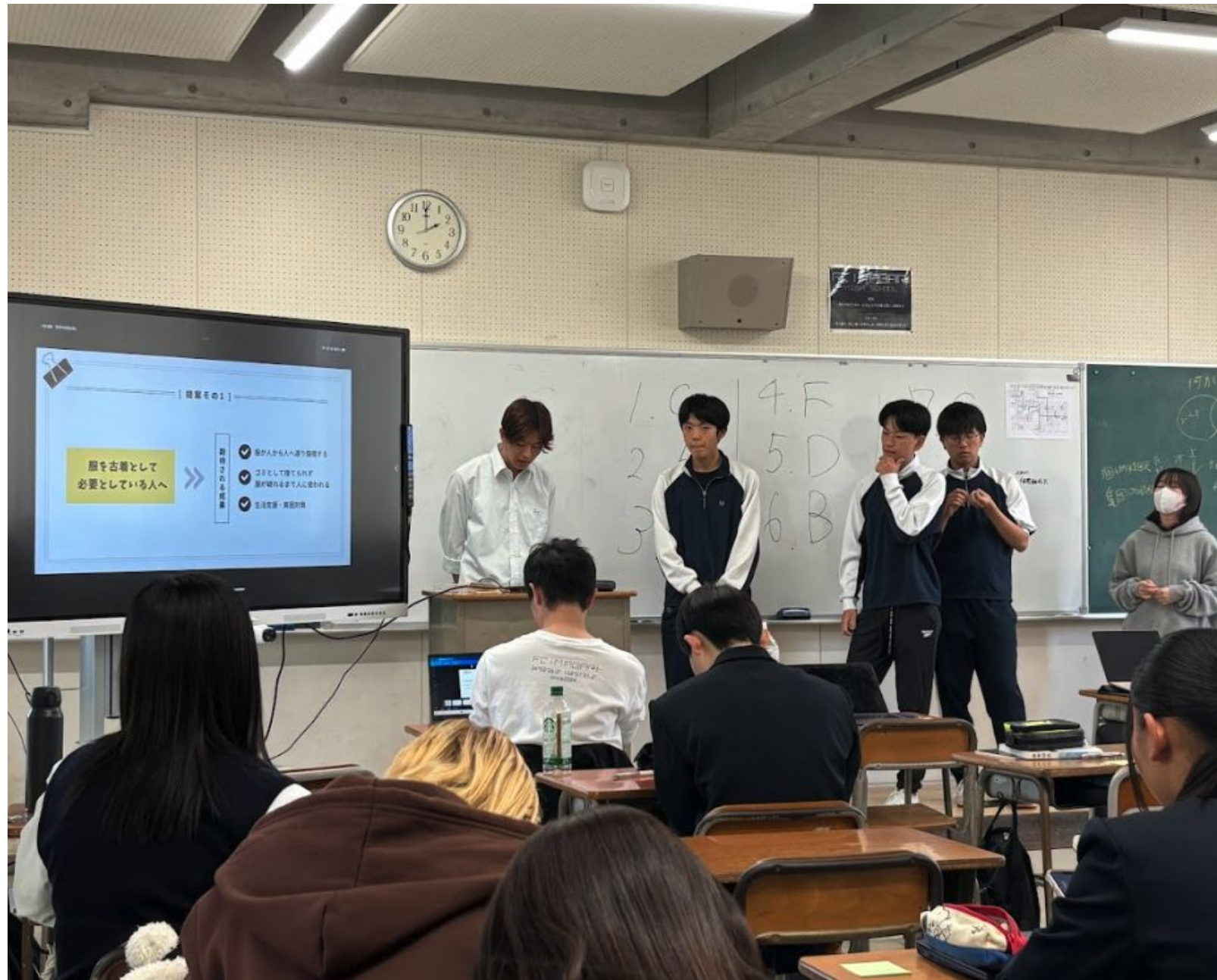
GX概論（講義）



フィールドワーク



共創プロジェクト



有機農業とは

有機農業の特徴

化学肥料や遺伝子組み換え技術などに依存せず
自然の仕組みを生かして作る農業方法

有機農業のメリット

化学肥料を使わないため、野菜が安全で安心
環境への負荷がかからない

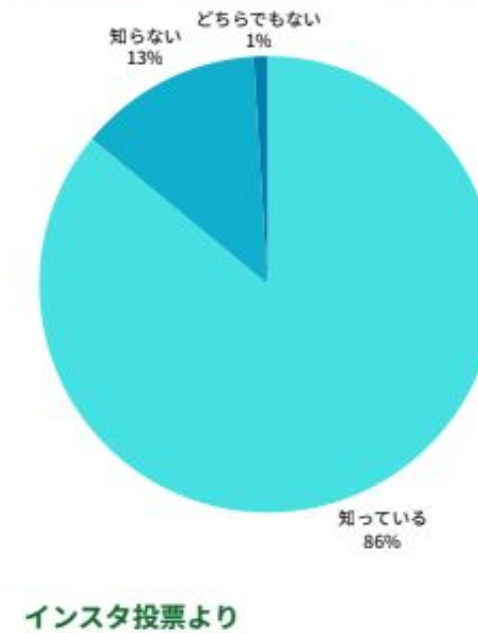
有機農業のデメリット

手間と労力がかかるためコストが高くなる
天候や害虫などの影響を受けやすく、収穫量に
差が出やすい

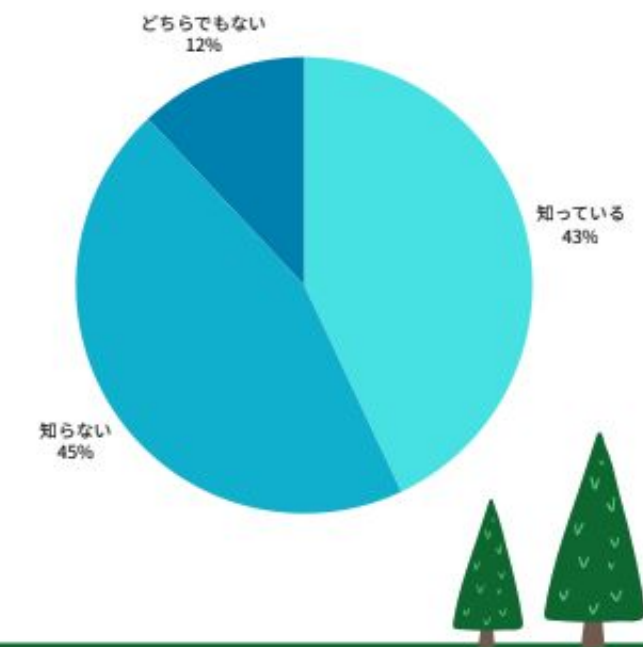


有機農業の課題とは

有機農業を知っている人



有機の魅力を知っている人



ゲーム内容

実際の有機農業のシミュレーションゲーム
ゲーム内で育てた野菜が家に届く！！



05 いまからできること

有機農家にこのプランを聞く・有機農業学習

農業ゲームの面白みアップ・アプリ開発

このプランに需要があるか調査

リフレクション



学びの振り返り

1年生後期から2年生前期にかけて受けた環境教育の授業を通して、私は自分の身近な地域が抱えている課題に目を向けるきっかけを得ることができました。これまでは「環境問題」と聞くと地球温暖化や海洋汚染といった大きな規模の出来事ばかりを思い浮かべていましたが、授業を通じて、実際には**身近な地域にもごみの分別の徹底不足や農地の減少、里山の管理不足など、生活と直結する環境課題が多く存在していることを知りました。**

環境問題を単なる知識として学ぶだけでなく、自分の生活や行動と結びつけて考える力を身につけることができた実感しています。特に、**日常生活の中から教育や環境に関わるアイデアを考えられるようになり、身近な問題を題材にすることで学びがより実感を伴うものとなり、学ぶと同時に当事者としての意識も芽生えました。**また、授業内でのスライド発表を通して、情報を整理し、わかりやすく伝えるプレゼンテーション力も向上したと思います。さらに、アイデアを実行可能な形にするためには具体的な方法を検討したり、ただ「こうしたい」と願望だけでなく実現するためのステップを考える必要があることを学び、類似の事例と比較しながら客観的に考えられるようになりつつありました。

私が最も大きく感じた学びは「**環境問題は身近で、自分の行動と深くつながっている**」という実感です。最初は地球温暖化や資源問題などを「**大きな社会課題**」としてしか捉えていませんでしたが、授業を通して**日常の小さな行動が環境に影響していることに気づきました。**寄付されている服の現状がどうなってしまったのかを知れたり、フィールドワークを通じて、技術の進化と環境配慮がどのように結びついているかを学び、持続可能な社会を実現するためには産業と環境保護の両立が不可欠だと理解しました。

1年生後期から2年生前期にかけての環境教育の授業を通して、グループで異なる意見を持つ仲間と一つの成果物を作り上げる難しさと、そこから得られた大きな学びがあった。当初は意見の相違から進捗が滞ることもあったが、一人ひとりが自身の役割を明確に持ち、そこに責任を果たすチームへと成長することで、毎回のテーマで質の高い成果物を生み出すことができたと思う。特に、**複雑な情報を整理し、論理的に展開する力、そして、チームメンバーそれぞれの強みを活かしながら、最終的な目標へと導くリーダーシップや協調性が養われたことは、今後の様々な活動においても大きな財産となるだろう。**

人材育成・地域における取り組み促進への広がり

FC今治高校 里山校と
「カリキュラムパートナー」
として連携。環境教育授業を提供



「Green Business Producers」の
企画・運営協力（自然電力主催）



島根県雲南市にて、GIA卒業生が
継続して現地事業に参画。

出張環境講座	ごみゼロゲーム	コンポスト製作	事業者サポート
			
・日本と世界のごみの現状と引き起こす問題点の共有 ・廃棄物削減と資源循環の地域の実践事例 ・ごみを出さないライフスタイルの具体的な行動例 ・生ごみの現状と問題点の共有、キエーロの紹介	地域の子どもたちとゲームを使っての、ごみの削減のアイデア発想と啓発。	各家庭に赴き、1つずつ製作。使い方やノウハウの共有。	市内の事業者のごみ削減の取り組みを加速する

関西学院大学・初の脱炭素演習
科目の開講に協力



日ASEANユース・フォーラム「TASC 2023」
研修協力（国際交流基金）



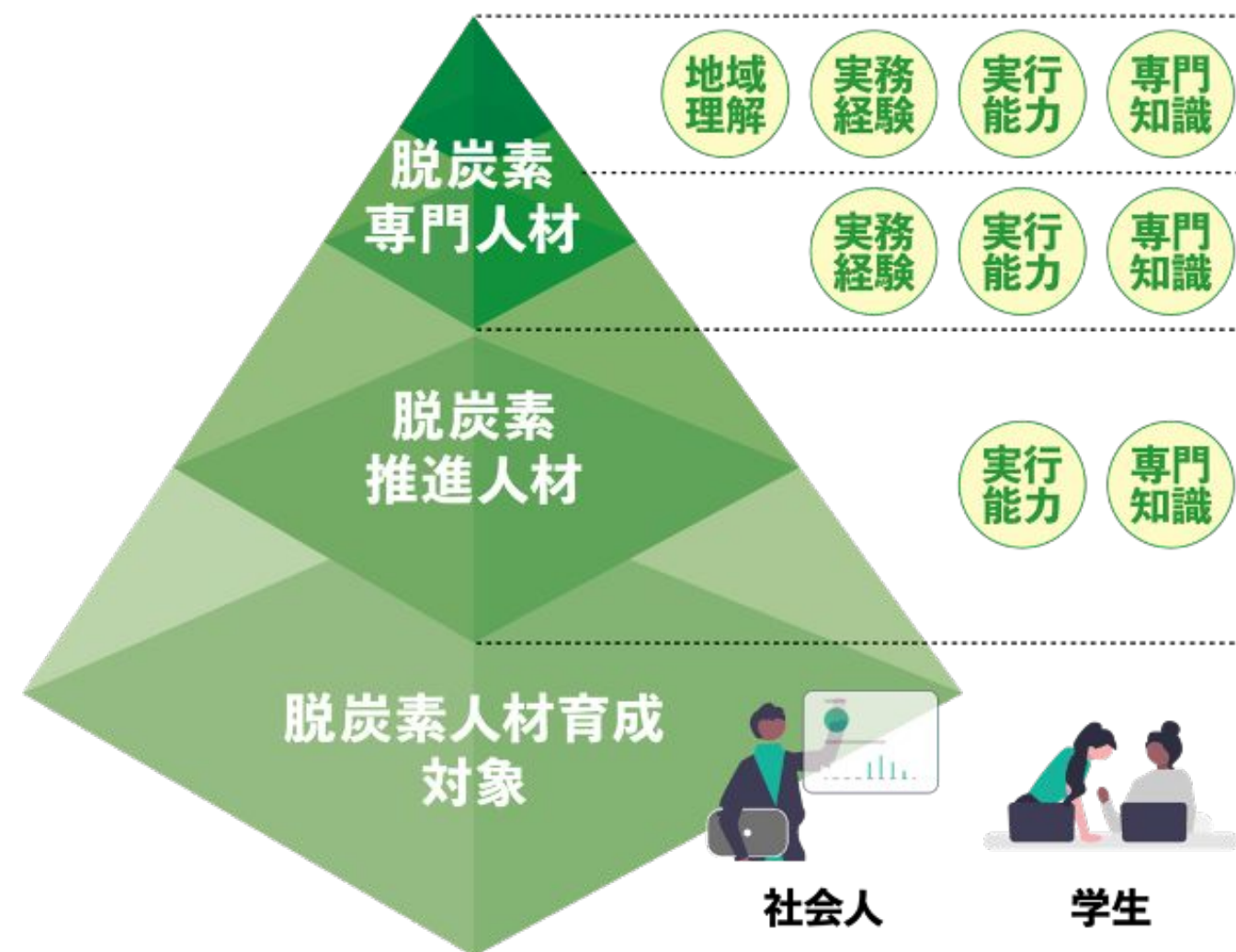
福井県鯖江市にて、GIA卒業生が
現地事業に地域おこしインターンとして参加



地方自治体とのパートナーシップ

GIAを卒業した脱炭素推進人材が、地域に入り施策推進に伴走

脱炭素、資源循環、その他包括的な環境政策推進に対し、
地域外から伴走する専門人材と、地域内で取組を推進する人材の連携体制でサポートします。



これまでのご支援実績

島根県雲南市様、長野県小布施町様、福井県鯖江市様 etc.



Contact us if you have any questions.

**Thank you for
your time!**

Contact

一般社団法人 Green innovation



<https://green-innovation-project.com/>



info@green-innovation-project.com